

大中PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信16号

令和5年12月22日(金)
文責：岡村 康平

スポンジ～本当の強さとは…～



これまでの通信で「大中ブランド」について記載しました。年度当初から本年度の重点事項として私自身も掲げてきた「傾聴」「挨拶」「時間」「掃除」そして、「良い習慣を地域に発信」ということが、少しずつ構築されつつあると思います。なぜならば、多くの生徒が目を見てきちんと挨拶できるなど良い習慣が形として目に見えたり、地域の方からお褒めの言葉があったりしたからです。先日、PTA活動の見守り委員の保護者の方から、

「下校時も大きな声で元気よく挨拶をしてくれました。とても素晴らしいですね！」と話をされました。

前生徒会長坂田七海さんを初めとする生徒会執行部及び各委員長・副委員長の校内での呼びかけや日々の生活…。今年度の生徒会スローガンでもある『大中同心』が「形として表れてきた」と思います。

『大きな努力で、小さな成果を』という言葉があります。

時に「逆なのでは？」と思うかもしれませんが、小さな努力で大きな成果を得る生き方よりも、「大きな努力で小さな成果」を得る生きの方が、自信になり満足が得られるのではないかと思います。

生徒会執行部及び委員長・副委員長も代替わりとなりました。これまでの3年生のリーダーたちから学んだことを、1・2年生が学校や地域に還元する番です。

物事は上手くいったからが難しいものです。学校も同じ。上手くいくということは「様々な問題や事象に鈍感になってしまう」ということがよくあります。人は上手くいっていると、それを感じなくなってしまう傾向があるかもしれません。

そして、それが大きな問題になってはじめて「問題があること」に気づく…。そのときは、まさに「時すでに遅し」です。我々、大人にも、子どもにも、よくあることだと思います。だからこそ、すべてにおいて『本当に試されるのは、上手くいったから』だと考えます。

学校行事など学級全体で取り組んでいく時に、衝突を見ることがしばしばあります。慣れすぎて、友達に嫌な思いをさせていることはないでしょうか。大事な友達を傷つけていることはないでしょうか…。

この「鈍感」にならないためには、自分をちょくちょく「振り返ること」が大切だと思います。そして、振り返ったことは「素直に受け止める」ことです。人によっては「自分は絶対、間違っていない」と一見、強そうな人がいます。そういう人ほど、実は、ものすごくもろいことが多いです。なぜなら、「なかなか自分の間違いを受け入れられない」といったような気持ちが、心の深い所にあるからです。逆に、

『本当に強い人』というのは、『**素直な人**』 だと思います。

素直な人は、他人からの指摘を「あっ、そうか」と受け止め、自分を改善することができます。もっと言えば、『素直さと謙虚さはリンクしている(つながっている)』と思います。「素直力」は鍛えないと伸びません。なぜなら、「俺はわかっているし…」など、その人の「ムダなプライド」という誰もが持っているものが邪魔をするからです。受け取り間違えて欲しくないことは、素直になるということは、単に「人の言うことに従う」という意味ではありません。

素直力＝吸収力

まさに、人の言葉や行動を、いかに吸収するかが大切です。例えば、人から受けた意見は、まず受け止めます。スポンジのように身体にしみこませた後に、自分なり考えます。受け入れることを優先できれば、それだけで吸収力は上がり、素直力も上がり、自分の成長曲線が放物線のように一気に上がると思います。

あなたは、どのような心のスポンジを持っていますか…？